

① 申請者	明和町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A (B) C D E
③ タイトル			
祈る皇女斎王のみやこ 斎宮			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
古代から中世にわたり、天皇に代わって伊勢神宮の天照大神に仕えた「斎王」は、皇女として生まれながら、都から離れた伊勢の地で、人と神との架け橋として、国の平安と繁栄を願い、神への祈りを捧げる日々を送った。 斎王の宮殿である斎宮は、伊勢神宮領の入口に位置し、都さながらの雅な暮らしが営まれていたと言われている。 地元の人々によって神聖な土地として守り続けられてきた斎宮跡一帯は、日本で斎宮が存在した唯一の場所として、皇女の祈りの精神を今日に伝えている。			
 			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
TEL		FAX	
E-mail			
住 所			

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）



位置図 B



ストーリー

斎王—それは、およそ 660 年という長きに亘り、国の平安と繁栄のため、都を離れ、伊勢神宮の天照大神に仕えた特別な皇族女性のこと。そんな斎王が暮らした地、斎宮。伊勢神宮でもなく都でもない。慎ましやかであり雅やか。斎宮という独特で特別な世界は日本で唯一ココだけ。ココは三重県多気郡明和町。

【斎王の始まり】

斎王の歴史は日本神話の時代まで遡る。語り継がれる伝説の初代斎王は、天照大神の御杖代であった豊鍬入姫命。そのあとを継ぎ、天照大神の鎮座される場所を探し諸国を旅し、伊勢の地にたどり着いた倭姫命。倭姫命は、伊勢の地（現在の明和町大淀）に入り、佐々夫江行宮を造り、カケチカラ行事の発祥となる伝説をつくった。これが斎王と明和町との縁となったのか、斎王制度が確立し、斎王が天照大神に仕えた場所・斎宮は、伊勢神宮からおおよそ 15 km離れた伊勢神宮領の入口につくられた。

【都から斎宮へ】

斎王は飛鳥時代に制度が確立して以降、天皇の即位に伴って、未婚の内親王または女王から占いにより選ばれた。選ばれた斎王は、家族と離れ、慣れ親しんだ都での生活とも別れを告げ、200 人余りともいわれる従者に伴われて、斎王群行と呼ばれる 5 泊 6 日の旅により、斎宮へ向かう。この旅は斎王にとって神に近づく禊祓の旅である。聖なる神領の入り口に流れる川、祓川で斎王は最後の禊を行い、斎宮に入る。



平安時代の群行路・帰京路

【祈る斎王】

斎宮に住まいを移した斎王が伊勢神宮に赴くのは、9 月の神嘗祭、6 月、12 月の月次祭の年 3 回のみ。9 月の神嘗祭に奉仕するため、8 月に身を清めたとされている尾野湊御禊場跡が大淀の海岸に残っている。それ以外の日々は斎宮で厳重な慎みを保ち、祈りの日々を過ごしなが、神と人との架け橋となっていた。



祈る斎王像（斎宮歴史博物館蔵）

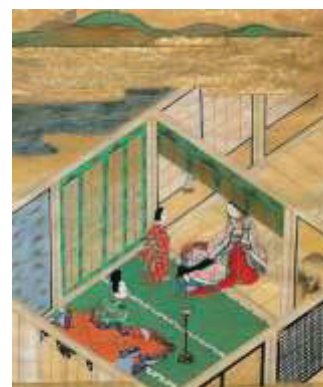
【斎王と王朝文学】

神に仕える身であるがために、恋愛を禁じられていた斎王。恋ゆえに斎王を解任されたり、恋人と引き裂かれたりという悲話も多く伝えられている。そんな斎王の悲恋をテーマにした物語が『伊勢物語』である。69 段「狩の使」には、在原業平と斎王の一夜の出会いが描かれており、斎王が在原業平との別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという故事にあやかって、大淀にある松を業平松と呼んでいる。斎王の儚き恋物語の世界が舞い降りる美風景が今も広がっている。

また、『源氏物語』には斎王をモデルとした人物が登場する。光源氏をめぐる葵の上と六条御息所の攻防は『源氏物語』の中でも有名なシーンであるが、この六条御息所は最終的に斎王に選ばれた娘と一緒に伊勢に向かう。つまり斎宮で暮らすことになる。これは、実際に娘に付き添って斎宮に赴いた徽子女王、規子内親王親子がモデルとなっている。他にも「竹河の段」には、今も残る斎宮の地名、「竹川」が登場する。「竹川」にあった花園には、四季の花が植えられ、斎王も楽しまれていたと伝えられている。他にも、『大和物語』『更級日記』『栄華物語』『大鏡』などの作品に斎王・斎宮が登場している。

【斎宮での暮らし】

斎王の斎宮での暮らしは、祈りを捧げる慎ましやかな生活の一方で、十二単を纏い、貝合わせや盤すごろくを楽しみ、歌を詠むといった都のような雅やかな生活をしていた。斎王の身の回りの世話、庶務などを 50 人近くの女官が行っていたことは、斎王の地位の高さをしめしている。また、斎宮寮と呼ばれる役所に勤める官人を中心に総勢 500 人以上の人々が斎宮で執務をしており、天皇の代理である斎王が暮らす斎宮は、都から訪れる人も多く、近隣の国からもさまざまな物資が集まるなど、この地方の文化の中心地の一つだった。



伊勢物語図色紙（斎宮歴史博物館蔵）

【斎王の解任】

斎王制度が続いたおよそ 660 年の間に、60 人以上の斎王が斎宮に赴いた。天皇の崩御や譲位によって新たな天皇に代わる時と、肉親が死ぬなどの不幸があった時、斎王自身の病などにより斎王は交代となった。赴任を終え、無事に都に帰った斎王もいれば、斎宮で亡くなった斎王もいる。彼女らのお墓は「隆子女王の墓」「惇子内親王の墓」として伝承され、今も大切に管理されている。

【幻の宮】

さまざまな史実や逸話・伝説を生みながらおよそ 660 年間続けられてきた斎王制度も、南北朝の時代以降、国内の兵乱のために廃絶してしまう。古の制度は歴史の中に埋もれ、地名として姿を残すも、斎宮は「幻の宮」となってしまった。幻の宮になりながらも、斎宮に住む人々は、先祖代々語り継がれてきた斎王・斎宮の存在を信じ、斎王の御殿があったとされる場所を「斎王の森」、斎宮の人々に親しまれている竹神社を「野々宮」と呼び、神聖な土地として大切に護り後世に伝え残してきた。

【蘇る斎宮】

そんな幻の宮・斎宮が蘇ったのは昭和の時代に入ってから。発掘調査により、斎宮の存在が確認され、昭和 54 年に国の史跡「斎宮跡」として指定された。発掘調査によって都のような「方格地割」という碁盤の目状の区画道路を備え、伊勢神宮の社殿にも類する 100 棟もの建物が整然と並んでいたことが明らかになった。他にも緑釉陶器や蹄脚硯、墨書土器、祭祀用具の出土により、斎宮では都のような雅やかな生活が営まれていたことや、常に清浄を求め、禊を行っていたことが裏付けられた。



斎宮出土品（重要文化財）

今も続く、斎宮究明の発掘調査。すべて調査し終えるまであと 200 年以上かかるとされている。

斎宮—そこには、古から現在までたくさんの人々のたくさんの祈りが込められている。ココ「斎宮」は、未来に続く人々の想いが溢れている。



斎宮成立期と方格地割の位置図

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	さいくうあと 斎宮跡	国史跡	天皇に代わり伊勢神宮に仕えた皇女・斎王の宮殿と斎宮寮と呼ばれた役所の跡。古代から中世にかけて660年間続いた。 斎宮での斎王の暮らしは、神への祈りをささげる日々を送るとともに都さながらの雅やかな生活を送っていた。	
2	さいくうあとしゆつどひん 斎宮跡出土品 (斎宮歴史博物館蔵)	国重文	出土品 2,661 点が指定されている。蹄脚硯や緑釉陶器、和鏡、羊形硯の出土により、これまで文献や地名からしか推定されていなかった斎宮の存在が現実的なものとなった。これらの出土品により斎宮では、神に仕える神聖かつ慎ましやかな生活と都さながらの雅やかな生活とが交錯する日々であったことが読み取れる。	
3	さいおう もり 斎王の森	未指定	斎王の宮殿があったと語り継がれ、斎宮のシンボリックな森として地元の人々により守られてきた。	
4	たけじんじゃ ののみや 竹神社 (野々宮)	未指定	斎王の宮殿があった神聖な場所が人々の信仰の場 (神社) として受け継がれ、現在も祈りの空間を感じられる。	
5	はらいがわ 禊川	未指定	禊川は、聖なる神領の入口に流れる川。斎王の斎宮への旅立ちには、200人余りの官人、女官等を連れて5泊6日かけて群行する。斎王にとっては、神に近づく禊祓の旅でもあり、この川で最後の禊を行って斎宮に赴任した。	
6	たけがわ はなぞの 竹川の花園	未指定	『源氏物語』の竹河の段の歌に登場し、伝承では、ここに四季の花が植えられていたとされ、斎王も花園に来て花を楽しんでいた景勝地	

7	たかこじょう はか 隆子女王の墓	未指定	斎宮で亡くなった斎王、隆子女王の墓。隆子女王は醍醐天皇の孫女。宮内庁が管理を行い、清楚な雰囲気漂う。	
8	さいおうお ののみとおんみそぎばあと 斎王尾野湊 御禊場跡	町史跡	尾野湊とは大淀海岸の古名。斎王が毎年 9 月に伊勢神宮で行われる「神嘗祭」に奉仕するため、8 月晦日、禊を行って身を清めた場所といわれている。	
9	おおよど 大淀	未指定	倭姫命が天照大神の鎮座場所を探し求め、この地にたどり着き命名 古代の多くの歌に「枕詞」として使われた景勝地	
10	なりひらまつ 業平松	未指定	斎王が伊勢に来た在原業平をこの松の下で見送り、別れを惜しみ、歌を詠み交わしたという物語に因んで業平松と呼ぶ。現在 3 代目 斎王のはかない恋物語の舞台となった風景が思い起こされる。	
11	きさふ えあんぐうあと 佐々夫江行宮跡	未指定	伝説の初代斎王・豊鍬入姫命の後を継ぎ、天照大神の御杖代として各地を巡幸した倭姫命が、伊勢の地に入られ、大淀に御船をとどめて造った宮跡	
12	カケチカラ はっしょう ち カケチカラ 発祥の地	未指定	斎王・倭姫命と真名鶴伝説が由来。神嘗祭に初穂の稲束を伊勢神宮の内玉垣に懸け、国の永遠の繁栄を祈る懸税（カケチカラ）行事の発祥の地	

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財の写真一覧

① 斎宮跡



② 斎宮跡出土品



③ 斎王の森



④ 竹神社



⑤ 祓川



⑥ 竹川の花園



⑦隆子女王の墓



⑩業平松



⑧斎王尾野湊御禊場跡



⑪佐々夫江行宮跡



⑨大淀



⑫カケチカラ発祥の地



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
7	祈る皇女斎王のみやこ 斎宮

(1) 将来像（ビジョン）

明和町が日本遺産を通じて目指す将来像は、『祈りの空間を創造』し、「祈りの文化」を世界に発信することで、人々が心豊かに暮らし続けられる、持続可能な地域社会の形成』である。

古代より天皇に代わり伊勢神宮の天照大神に仕えた皇女「斎王」が暮らした「斎宮」があった地である明和町は、長い歴史と豊かな文化を育んできた。斎王が国の平安と繁栄を祈った「祈りの精神」は、今も町のいたるところに息づき、私たちに大切なメッセージを語りかけている。

明和町は、このかけがえのない歴史的・文化的遺産を未来へ継承していくために、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を軸として、史跡斎宮跡を核としたまちづくりと、日本遺産を活かした観光誘客を、明和町日本遺産活用推進協議会、(一社)明和観光商社とともに推進していく。この方針は、『明和町総合計画』や『明和町総合戦略』にも明確に示されており、町全体の将来像と深く結びついている。

具体的には、日本遺産を関連文化財群のひとつとして位置付けている『明和町文化財保存活用地域計画』の保存活用の方針に基づき、史跡斎宮跡を核とした歴史的風致の維持向上を目指していく。その実現のために、『明和町歴史的風致維持向上計画』に基づき構成文化財間を結ぶ環境整備も積極的に進めていく。さらに、『史跡斎宮跡保存活用計画』を新たに策定し、日本遺産全体の保存と活用に対して、より計画的に取り組める体制を構築する。学校教育においても、日本遺産などの歴史文化を継承していく郷土愛に満ちた人材の育成を掲げる『明和町教育大綱』のもとに、郷土への愛着を育てていく。

目指すのは、50年後、100年後も、人々が心豊かに暮らし続けられる、持続可能な地域社会である。そのために、まず史跡斎宮跡を、歴史と自然が調和する「祈りの空間」として整備し、復元された建物や庭園が当時の斎王の暮らしを鮮やかに描き出す、特別な体験を提供できる場所へと進化させていく。

国内外から訪れる人々は、史跡斎宮跡で古代の息吹を感じ、日々の喧騒から離れて心身をリフレッシュできる特別な時間を過ごすことができる。そして、リピーターとして何度も訪れたいような、特別な場所になるだろう。

地域住民にとっては、史跡斎宮跡が日々の生活の中で身近に感じられる「祈りの空間」となることで、地域への愛着と誇りを育み、活気ある地域づくりを進める拠点となる。地域住民が斎宮の歴史と文化を未来へ継承する活動に積極的に参加することで、より活気のある魅力的な地域コミュニティを形成していく。

また、民間事業者は、「祈り」や「歴史・文化」をテーマとした魅力的な商品やサービス、観光事業を展開することで、経済的な自立を果たすとともに、持続可能な地域づくりに貢献する。民間事業者は、創造性と起業家精神を発揮し、新たなビジネスチャンスを生み出し、地域経済の活性化を牽引していく。

明和町は、上記の将来像を実現するために、「祈り」を核とした地域ブランド戦略、産官学民が連携した持続可能な体制構築、日本遺産ストーリーの魅力を最大限に引き出す事業

展開、という3つの柱を軸に、具体的な取り組みを進めていく。

「祈り」を核とした地域ブランド戦略では、斎王の「祈り」という普遍的なテーマを核に、明和町の魅力を国内外に発信する戦略を策定し、実行する。産官学民が連携した持続可能な体制構築では、行政、DMO、民間事業者、地域住民、大学など、多様な関係者がそれぞれの強みを活かし、連携・協働することで、自立・自走できる持続可能な体制を構築していく。日本遺産ストーリーの魅力を最大限に引き出す事業展開では、斎王の「祈り」を体感できる魅力的な観光コンテンツの開発、「祈り」をテーマにした商品開発、歴史的景観を活かしたまちづくり、「祈り」の物語を伝える情報発信など、様々な事業を展開する。

これらの取り組みを通じて、明和町は、「祈りの精神」を未来へつなぐ斎宮」として、世界に誇れる、心豊かな持続可能な地域社会を創造していく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－A：日本遺産関連施設入館者数

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	45,849	62,423	53,797			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	63,000	68,500	69,000	69,500	70,000	70,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館の入館者数のほか、新規整備する日本遺産案内施設（斎宮駅休憩所、ミュージアムショップ）での来館・案内者数で把握。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②－A：町内で実施したアンケート調査結果

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	54	91	66			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	67	68	69	70	71	72
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	町内での行事などでの町民対象のアンケート調査にて把握。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産に関連した施設の入館料、体験料						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	3,428,000	7,189,000	5,739,000			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	7,500,000	7,800,000	8,100,000	8,400,000	8,700,000	9,000,000
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		関連施設である斎宮歴史博物館の入館料と、いつきのみや歴史体験館の体験料の合計額。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産構成文化財が毀損滅失していない割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100	100	100			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	100	100	100	100	100	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		構成文化財の状況把握を実施し、保存状況を確認して把握。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：町内宿泊施設利用者数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	24,393	27,330	39,818			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	40,000	40,500	41,000	41,500	42,000	42,500
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		町内の宿泊施設利用者数で把握。				

(3) 地域活性化のための取組の概要

明和町は、近年の観光客数の減少や地域経済の停滞、少子高齢化の進行、地域住民の日本遺産に対する認知度の低さ、事業を推進していく体制と戦略が脆弱といった様々な課題に直面しています。これらの課題を解決し、持続可能な地域社会を形成していくためには、地域固有の歴史文化を活かしたまちづくりが不可欠である。

そこで、明和町では、以下の7つの取り組みを柱として、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を軸とした地域活性化を推進します。特に、①より強力な推進体制の構築、②戦略的な計画策定と実行、そして④魅力と快適性を高める空間整備を重点的に実施することで、持続可能な地域づくりを目指す。

① より強力な推進体制へ ～産官学民連携による日本遺産活用 の推進～

明和町日本遺産活用推進協議会を中核とした、より強力な推進体制を構築する。令和7年度には、協議会内に、戦略立案や事業推進を専門的に担う「戦略企画部会」を設置し、各分野の専門家や民間事業者を公募や勧誘等によって参画させることで、多様な視点を取り入れた戦略策定と事業推進を行う。また、「戦略企画部会」が中心となり、民間事業者が主体的に事業を企画・運営し、収益化できる仕組みを構築していく。協議会と戦略企画部会は、会費制度の導入や寄付金募集など、多様な財源確保に取り組み、長期的な視点に立った組織運営を行うための基盤整備を進める。さらに、協議会、戦略企画部会、各構成団体それぞれの役割分担を明確化し、主要委員による「理事会」を設置することで、情報共有の円滑化、スピード化を進め、情報共有システムを導入するなど、情報共有の強化を図る。

② 戦略的な計画策定と実行 ～日本遺産ストーリーを軸とした持続可能な地域づくり～

日本遺産ストーリーに即した事業を戦略的に実行するため、まず史跡斎宮跡の現状と課題を分析し、日本遺産構成文化財としての保存と活用の基本理念や整備計画、活用計画、運営管理計画などを具体的に定めた『史跡斎宮跡保存活用計画』を令和7年度中に策定し、文化庁に認定申請の予定である。また、『明和町総合計画』、『明和町総合戦略』、『明和町文化財保存活用地域計画』、『明和町歴史的風致維持向上計画』、『明和町教育大綱』など関連計画についても、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーを踏まえ、令和7年度中に見直し・改定を行う。これらの計画に基づいて実施した事業については、目標達成状況や課題を定期的にモニタリングし、評価することで、より効果的な事業実施体制を構築していく。また、メインストーリーを補完する形で、斎王、斎宮に関するサブストーリーを整理、抽出することで、新たな事業展開につなげていく。

③ 「斎王のみやこ」を支える人材育成 ～多様な才能が輝く、持続可能な地域づくり～

斎宮の歴史や文化、斎王の「祈り」という精神を理解し、伝えられる人材や、地域の魅力を発掘し、国内外に発信できる人材など、多様な分野の人材育成に取り組む。具体的には、ガイド育成として、斎宮ガイド養成講座や専門ガイド育成、複合ガイド育成などを実施する。また、日本遺産を活用したビジネス人材育成として、ビジネスプランコンテストや経営・マーケティング研修、専門家による個別相談などを開催する。さらに、地域住民への意識啓発として、講演会・シンポジウムや講座・ワークショップを開催し、小中学校には地域学習教材を作成・配布する。これらの取り組みを通して、行政、教育機関、民間事業者、地域住民が連携した人材育成体制を構築していく。

④ 魅力と快適性を高める空間整備 ～「祈りの空間」を体感できる環境づくり～

来訪者に「斎王のみやこ」の世界観を体感、理解してもらうため、令和7年度には、斎宮

駅史跡公園口休憩所と斎宮歴史博物館ミュージアムショップなどを、日本遺産ガイダンス施設として整備する。また、快適で分かりやすい環境を整備するため、「祈りの空間」を体感できる空間整備として、史跡公園の整備や構成文化財の整備、斎宮と関連する地域資源の活用などを進める。また、多様なニーズに対応した整備として、高齢者や障がい者、外国人観光客など、多様なニーズに対応したバリアフリー化や多言語対応、無料Wi-Fi環境整備などを行う。整備を行う際には、周辺の歴史的景観との調和にも配慮し、景観を損なわないデザインや素材を採用するなど、景観への配慮を徹底する。これらの整備に必要な資金については、寄付金募集、クラウドファンディング、補助金活用など、多様な手段を検討していく。

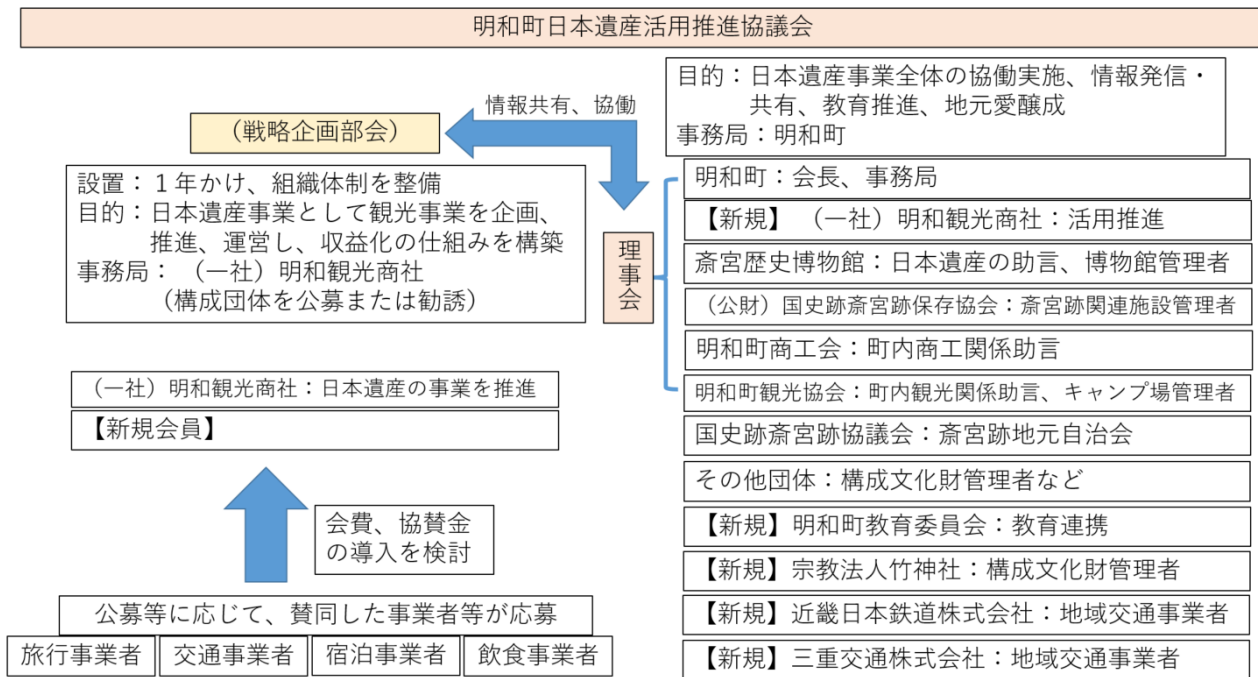
⑤ 「祈りの旅」を創造する観光事業 ～日本遺産の価値を活かした、心に残る体験提供～
日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を活かした魅力的な観光事業を展開し、地域経済の活性化と雇用創出を図りながら、持続可能な地域づくりに貢献する。「祈りの旅」をテーマに、斎宮の歴史や文化、斎王の「祈り」という精神を深く感じることが出来る観光ルートや体験プログラムを開発し、国内外の観光客向けに、それぞれのニーズに合わせた多様な観光商品を造成する。これらの観光商品の販売促進においては、(一社)明和観光商社と連携し、旅行会社への営業活動などを強化することで、誘客促進を図る。また、高付加価値化やオンライン予約システム導入、日本遺産ブランド商品開発を通して、収益化と持続可能性を追求していく。さらに、地元の飲食店や宿泊施設、土産物店などと連携することで、観光客の消費を地域経済に還元する仕組みを作り、観光事業に関わる人材育成による雇用創出を図る。

⑥ 多様な世代へ届ける「祈りの物語」 ～地域の魅力を再発見し、未来へ継承する～
日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の価値や魅力を、地域住民だけでなく、国内外の観光客にも広く伝え、理解を深めてもらうため、学校教育、地域住民、観光客を対象とした普及啓発活動を展開する。学校教育では、体験型学習や教材開発を通して、子どもたちの理解促進を図る。地域住民に対しては、講演会・シンポジウムや見学会を開催するとともに、地域の祭りやイベントに日本遺産の要素を取り入れる。観光客に対しては、パンフレットや音声ガイド、ウェブサイトなどの多言語化を進めるとともに、外国語対応の体験型プログラムを開発する。これらの情報発信には、ウェブサイト、SNS、パンフレット、動画など、多様な媒体・手法を活用する。

⑦ 戦略的な情報発信で「斎王のみやこ」の魅力を世界へ ～心を揺さぶるストーリーを、多様なメディアで発信～

日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の魅力を国内外に効果的に発信するために、認知度向上、理解促進、誘客促進、地域活性化を目的とした情報発信活動を強化する。国内外の観光客、地域住民、メディアをターゲットに、斎王の「祈り」というテーマを軸としたストーリー性のあるコンテンツや、構成文化財、体験プログラム、観光情報、地域情報などを発信していく。発信媒体としては、多言語対応やアクセシビリティに配慮したウェブサイト、SNS、パンフレット、動画などを活用する。さらに、新聞、雑誌、テレビ、Webメディアなどへの情報提供を積極的に行うことで、メディアを通じた情報発信にも力を入れていく。これらの情報発信の効果を測定するため、アクセス解析やアンケート調査、メディア掲載状況などを定期的に分析し、情報発信内容の改善に努める。

(4) 実施体制



明和町は、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を活かした地域活性化を、長期的に推進していくために、関係機関が連携し、それぞれの役割を明確にすることで、責任と権限を伴った、より強力で持続可能な体制を構築する。

【明和町日本遺産活用推進協議会】

役割：日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」に関する事業全体の企画・調整、情報共有、進捗管理、評価などを担う。

構成：行政、（一社）明和観光商社、観光協会、商工会、教育委員会、構成文化財管理者、民間事業者、地域住民代表など、多様な関係者で構成する。

運営：年4回程度の全体会議を開催するほか、必要に応じて部会や理事会を設置し、より専門的な議論や検討、情報共有の円滑化を行う。

【（一社）明和観光商社】

役割：観光振興を担う中核機関として、日本遺産を活用した観光商品の開発・販売、誘客促進、情報発信、観光人材育成などを積極的に推進する。

連携：協議会や民間事業者と密接に連携し、一体となって事業を推進する。

【民間事業者】

役割：日本遺産を活用したビジネスを創出し、地域経済の活性化に貢献する。

支援：協議会や（一社）明和観光商社は、民間事業者に対し、情報提供、資金調達、人材育成などの支援を行う。

【地域住民】

役割：地域の伝統文化や歴史を継承し、守り伝えるとともに、日本遺産を活用した地域づくりに積極的に参加する。

参画：協議会や（一社）明和観光商社は、地域住民が事業に参画できる機会を積極的に提供する。

【大学・研究機関】

役割：日本遺産に関する調査研究、人材育成、情報発信などを通して、事業を学術的に

支援する。

連携：協議会や(一社)明和観光商社は、大学・研究機関と連携協定を締結するなど、継続的な連携体制を構築する。

・ 自立・自走に向けた取り組み：

財源確保：協議会は、行政からの支援に頼らず、自立して事業を継続できるよう、会費収入、寄付金収入、事業収入、外部資金の獲得など、多様な財源確保の手段を検討する。

人材育成：協議会は、事業運営に必要な人材を育成するため、研修プログラムの実施や、外部人材の登用などを積極的に行う。

[人材育成・確保の方針]

◆人材確保

多様な人材との繋がりを創出し、日本遺産を支える仲間を増やす。

- ・ 関係人口の拡大 地域内外で明和町や日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」に興味関心を持つ人を増やし、積極的に関わる機会を提供することで、「関係人口」を拡大する。
 - 情報発信：魅力的なウェブサイト、パンフレット、動画などを制作し、多言語対応を進めることで、国内外に広く情報発信を行う。
 - イベント開催：日本遺産をテーマにした講演会、シンポジウム、ワークショップなどを開催し、地域内外の人々に学びと交流の機会を提供する。
 - 交流事業：都市部との交流事業や、海外からの視察受け入れなどを実施することで、新たな視点を取り入れ、人的ネットワークを構築する。
- ・ 地域人材の発掘：地域住民の中に眠る才能や経験を発掘し、日本遺産を活用した地域づくりに活かす。
 - スキルアップ：地域住民向けに、ガイド養成講座、歴史講座、伝統文化体験講座などを開催し、必要な知識やスキルを習得する機会を提供する。
 - 活躍の場：イベント運営、ボランティア活動、商品開発など、地域住民が活躍できる場を積極的に提供する。
- ・ 移住・定住促進：日本遺産に関心を持つ人をターゲットとした移住・定住促進施策を展開することで、地域に新たな活力を生み出す。
 - 情報発信：日本遺産を活かした暮らしの魅力を発信する。
 - 移住体験ツアー：移住希望者を対象とした体験ツアーを実施する。
 - 移住相談：移住に関する相談窓口を設置し、きめ細やかなサポートを提供する。

◆人材育成

「斎王のみやこ」を担う人材を育成し、持続可能な地域づくりを推進する

- ・ 「祈り」の精神を理解し、伝えられる人材育成：
 - 研修プログラム：斎宮の歴史や文化、斎王の「祈り」という精神を深く理解し、来訪者に魅力的に伝えられる人材を育成するための研修プログラムを開発・実施する。
 - 現地研修：構成文化財や関連史跡などを巡る現地研修を通して、実践的な知

識を習得する機会を提供する。

• **多様な専門スキル：**

- **観光分野：**語学力、観光ガイドスキル、観光マーケティング、商品開発など
- **文化分野：**歴史、伝統文化、文化財保存、イベント企画・運営など
- **地域振興分野：**地域活性化、コミュニティビジネス、まちづくりなど
- **多様なニーズに対応した研修：**各分野の専門家を講師に招き、実践的な研修プログラムを提供する。

• **次世代育成：**

- **子ども向けプログラム：**子ども向けに、斎宮の歴史や文化を学ぶ体験型プログラムを提供し、郷土愛を育む。
- **学校教育との連携：**地元の学校と連携し、日本遺産に関する授業や課外活動を実施する。

• **継続的な学びの機会：**

- **スキルアップ研修：**最新の知識やスキルを習得するための研修を定期的に開催する。
- **先進地視察：**他の日本遺産地域や、観光振興の先進地を視察し、新たな視点を取り入れる機会を提供する。
- **交流会：**関係者同士の交流会を開催し、情報共有や意見交換を促進する。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

明和町は、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の取り組みを、行政主導から地域主導へと転換し、将来的には行政からの支援に頼らず、自立・自走できる持続可能な運営体制を構築することを目指す。そのため、以下の戦略を段階的に実行していく。

短期目標（～令和9年度）：

1. **「斎王のみやこ」ブランドの確立：**認知度向上を図るため、「祈り」「癒し」「歴史ロマン」「自然」をキーワードとした明確なブランドコンセプトを策定し、統一感のあるイメージを発信する。体験プログラムやイベントを充実させ、「斎王のみやこ」ならではの体験価値を提供する。
2. **収益事業の創出と育成：**協議会は、民間事業者に対し、ビジネスプランコンテストや起業支援、資金調達、マーケティングなどの支援を通して収益事業の創出を促進する。行政が率先して収益事業モデルを開発し、成功事例を共有することで、民間事業者の参画を促していく。収益事業の一部は、日本遺産の保存活用や地域活性化に還元する仕組みを構築する。
3. **自立・自走を支える人材育成：**協議会が中心となり、事業企画・運営・マーケティング・財務管理など、自立・自走に必要なスキルを習得できる人材育成プログラムを開発・実施する。関係人口を対象とした研修やワークショップも開催し、地域活性化に参画する人材を育成する。

長期目標（令和10年度～）：

1. **日本遺産活用推進協議会の役割転換：**事業の企画・調整機能から、民間事業者や地域住民への支援、情報提供、ネットワーク構築など、プラットフォームとしての機能へと転換していく。運営資金も、行政からの支援を段階的に減らし、会費収入、

寄付金収入、事業収入などで確保できる体制を構築する。

2. **民間事業者による事業運営**：収益事業の自立化を目指し、協議会や行政からの支援を受けながら、将来的には自立して事業を運営できるよう、経営基盤を強化し、事業の多角化や新規事業の創出を行う。
3. **地域住民による主体的な活動**：地域住民が中心となる組織や団体を設立し、日本遺産を活用した地域づくり活動を自主的に展開することを支援する。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

明和町は、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の構成文化財を未来へ継承していくために、地域全体で保存と活用の好循環を創出する仕組みを構築する。

その中核となるのは、斎王の「祈り」を核とした好循環モデルである。史跡斎宮跡をはじめとする構成文化財を「祈り」を体感できる空間として整備・活用することで、来訪者の増加を図る。斎王の儀式を再現するイベントや、十二単の着付け体験などを通して「祈り」を五感で感じられる機会を提供し、来訪者の満足度を高めていく。さらに、斎宮の歴史や文化を題材とした商品を開発し、販売することで収益を確保し、その収益を保存・活用に還元することで、持続可能な体制を構築していく。そして、斎宮にまつわる物語や伝説を絵本、マンガ、映像などの多様な媒体で発信することで、幅広い世代に「祈り」の精神を伝えていく。

この好循環モデルを実現するために、行政、日本遺産活用推進協議会、民間事業者、地域住民がそれぞれの役割を明確に連携し、活動していく。

- ・ **行政**は、文化財の保存修理、環境整備、普及啓発活動などに必要な予算を確保する。文化財の保存活用に関する条例を改正するなど、制度面での整備を進め、文化財の保存活用に関する専門知識やスキルを持った人材育成にも積極的に取り組む。
- ・ **日本遺産活用推進協議会**は、（一社）明和観光商社と連携し、日本遺産を活用した観光商品の開発・販売、誘客促進、情報発信などを行う。観光事業で得られた収益の一部を文化財の保存活用に還元することで、好循環を促進する役割を担う。
- ・ **民間事業者**は、斎宮の歴史や文化を題材とした商品やサービスを開発し、地域経済の活性化に貢献する。観光ガイドやイベント運営スタッフなど、日本遺産関連事業に関わる人材を雇用することで雇用創出を促し、文化財の保全活動や地域貢献活動に積極的に参加することで、地域への貢献を果たす。
- ・ **地域住民**は、文化財の清掃活動や草刈りなど、身近なところから文化財を守る活動に参加する。イベントの企画・運営やガイドボランティアなど、文化財を活用した活動にも積極的に参加することで、主体的に地域づくりに参画していく。地域の伝統文化や歴史を学び、次世代へ伝えていくことも重要な役割である。

具体的な事例としては、史跡斎宮跡を歴史と自然が調和する「祈りの空間」として整備し、散策路や休憩スペースを設け、四季折々の花々を楽しめる史跡公園の整備や、夜間ライトアップの実施などが挙げられる。また、斎王の儀式を再現する体験プログラム、十二単の着付け体験、古代の料理教室、勾玉づくり体験など、五感で楽しめる体験プログラムの提供や、斎宮の歴史や文化をモチーフにしたお菓子や工芸品、文房具などの開発・販売なども計画している。

明和町では、長期的な視点に立った保存活用計画を策定し、定期的に見直しを行うこと

で、時代の変化に対応した事業展開を行っていく。次世代を担う人材を育成するために、子ども向けに斎宮の歴史や文化を学ぶ体験プログラムの提供や、若者向けのボランティア活動、インターンシップなどを実施し、伝統的な工芸技術を継承するための職人育成や技術研修なども実施する。

明和町は、これらの取り組みを通して、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を地域にとってかけがえのない財産として守り育て、未来へ継承していく。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名		日本遺産活用推進協議会機能強化事業	
概要		日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を軸とした地域活性化を効果的かつ持続的に推進するため、明和町日本遺産活用推進協議会の機能強化を図り、司令塔としての役割を強化する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	戦略企画部会設置による推進体制の強化	・明和町日本遺産活用推進協議会内に、戦略立案・事業評価・進捗管理などを専門的に担う「戦略企画部会」を設置する。 ・定期的な会議や必要に応じて設置するワーキンググループを通して活発な意見交換と情報共有を行い、戦略策定や事業推進を図る。 ・主要関係機関との定期的な理事会を開催し、協働事業を推進することで、関係者間の連携を強化する。	明和町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	協議会への行政組織以外の参画者数		13
2022			13
2023			13
2024	協議会への行政組織以外の参画者数		13
2025	協議会への行政組織以外の参画者数		16
2026	協議会への行政組織以外の参画者数		17
2027	協議会への行政組織以外の参画者数		17
2028	協議会への行政組織以外の参画者数		18
2029	協議会への行政組織以外の参画者数		19
事業費		2024 年度：500 千円 2025 年度：500 千円 2026 年度：500 千円	
継続に向けた事業設計		戦略企画部会の運営費用、人材育成費用、情報発信費用を計上する。民間事業者への支援事業、関係機関との連携事業などを拡充する。	
事業費		2027 年度：400 千円 2028 年度：300 千円 2029 年度：200 千円	
継続に向けた事業設計		協議会の自立・自走に向けた体制を強化するため、行政からの補助金を段階的に減らし、会費収入、寄付金収入、事業収入などで運営資金を確保できる仕組みを構築する。	

(事業番号 1-B)

事業名		日本遺産 DMO 事業推進力強化事業	
概要		日本遺産活用推進協議会が策定した計画に基づき、DMO である(一社)明和観光商社が、事業の企画・実施・評価を一貫して担い、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を活かした観光振興と地域活性化を推進する体制を構築する。	
	取組名	取組内容	実施主体
②	DMO による事業推進体制の強化	・ DMO 内に、日本遺産事業を専門的に担当する部署または専任担当者を設置する。 ・ 協議会が策定した計画に基づき、(一社)明和観光商社が中心となり、日本遺産を活用した観光商品の開発・販売/誘客促進のためのプロモーション活動/情報発信/観光人材育成/関係機関との連携等を企画・実施する。 ・ DMO は、事業の進捗状況や成果、課題などを協議会に定期的に報告し、連携を密にする。 協議会は、DMO に対し、必要な情報提供や助言、資金調達、人材育成などの支援を行う。	DMO
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	DMO が企画・実施した事業の数(件)		—
2022			—
2023			—
2024	DMO が企画・実施した事業の数(件)		3
2025	DMO が企画・実施した事業の数(件)		4
2026	DMO が企画・実施した事業の数(件)		5
2027	DMO が企画・実施した事業の数(件)		6
2028	DMO が企画・実施した事業の数(件)		7
2029	DMO が企画・実施した事業の数(件)		8
事業費	2024 年度：500 千円 2025 年度：500 千円 2026 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	DMO の日本遺産事業担当部署の運営費用、事業実施費用などを計上する。DMO が、より多くの事業を企画・実施できるよう、体制強化や人材育成を支援する。		
事業費	2027 年度：400 千円 2028 年度：300 千円 2029 年度：200 千円		
継続に向けた事業設計	DMO が自立・自走できるような体制を構築するため、行政からの補助金を段階的に減らし、事業収入などで運営資金を確保できる仕組みを検討する。		

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	日本遺産「斎王のみやこ」関連計画策定・見直し事業		
概要	日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーを軸とした地域活性化を総合的かつ効果的に推進するため、関連する行政計画の策定、見直し、改定を行う。各計画において、日本遺産との関連性を明確化し、具体的な目標設定、施策などを再検討することで、事業全体の一貫性と推進力を高める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連計画の策定・見直し	・『史跡斎宮跡保存活用計画』の認定申請 ・『明和町総合計画』『明和町総合戦略』『明和町歴史的風致維持向上計画』『明和町教育大綱』『明和町文化財保存活用地域計画』などの見直し・改定 ・見直し・改定にあたり、必要に応じて、地域住民や民間事業者、専門家などの意見を聴取する。	明和町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		7
2022			7
2023			7
2024	行政計画策定委員会の開催		5
2025	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		8
2026	行政計画の更新		2
2027	行政計画の更新		1
2028	日本遺産との関係性を明確化した行政計画の数		9
2029	行政計画策定委員会の開催		2
事業費	2024 年度：1,021 千円 2025 年度：6,500 千円 2026 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	各行政計画の PDCA に基づき、計画を更新、継続させていく。		
事業費	2024 年度：500 千円 2025 年度：500 千円 2026 年度：500 千円		
継続に向けた事業設計	各行政計画の PDCA に基づき、計画を更新、継続させていく。		

(7) - 3 人材育成			
(事業番号 3 - A)			
事業名	日本遺産活用人材育成事業		
概要	日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」を活かした地域活性化を推進するため、必要な知識・スキルを習得した人材を育成する。研修やワークショップ、現場実習など、多様な育成方法を通して、地域に貢献できる「日本遺産を活用する人材・事業者」を増やし、持続的な地域活性化の体制を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	(仮称) 日本遺産斎宮大学の実施	・ガイド、地域コーディネーター、観光事業者、地域住民など、幅広い層を対象とした人材育成プログラムを実施する。 ・基礎講座、実践講座、現地研修、交流会などを通して、斎宮の歴史や文化、斎王の「祈り」、日本遺産制度の理解を深め、必要な知識・スキルを習得する機会を提供する。 ・一定の基準を満たした受講者には、斎宮アカデミー修了証を授与し、日本遺産を活用する人材・事業者として登録する。	日本遺産活用推進協議会、DMO、専門家、民間事業者
②	DMO による人材育成	・DMO と連携し、観光マーケティング、商品開発、顧客満足度向上など、実践的な研修プログラムを実施する。 ・学生や若者を対象としたインターンシップの機会を提供し、DMO における実践的なスキルを習得できる機会を提供する。	日本遺産活用推進協議会、DMO
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産を活用する人材・事業者の数		13
2022			13
2023			14
2024	日本遺産を活用する人材・事業者の数		16
2025	日本遺産を活用する人材・事業者の数		18
2026	日本遺産を活用する人材・事業者の数		20
2027	日本遺産を活用する人材・事業者の数		22
2028	日本遺産を活用する人材・事業者の数		24
2029	日本遺産を活用する人材・事業者の数		26
事業費	2024 年度：500 2025 年度：500 2026 年度：500		
継続に向けた事業設計	多様な人材育成プログラムを開発し、受講者数を増やす。民間事業者との連携事業を拡充し、より多くの民間事業者内で人材育成を促進する。		

事業費	2027 年度 : 500	2028 年度 : 500	2029 年度 : 500
継続に向けた 事業設計	育成された人材が継続的に活躍できる仕組みづくりに取り組む。 人材育成事業の自立化を目指し、行政からの補助金を段階的に減らし、 受講料収入などで運営資金を確保できる仕組みを検討する。		

(7) - 4 整備			
(事業番号 4 - A)			
事業名	日本遺産景観整備事業		
概要	日本遺産のストーリーに関連する地域空間において、史跡斎宮跡および構成文化財周辺の文化的景観を整備することで、来訪者に魅力的な景観を体感できる環境を創出する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	史跡斎宮跡および構成文化財周辺の景観整備	景観整備：構成文化財を、歴史と自然が調和する「祈りの空間」として整備する。 ・斎王の儀式を再現できる広場や、静かに瞑想できる空間を整備する。 ・季節の花々や樹木を植栽し、四季折々の美しい景観を楽しめるようにする。	明和町
②	周辺景観の保全	構成文化財周辺の田園風景や里山の景観を保全し、歴史的な景観と調和した美しい景観を維持する。 ・農地や山林の保全活動への支援 ・景観に配慮した建築物のデザインガイドライン策定	明和町
③	案内サインの整備	日本遺産構成文化財を巡る周遊ルートを整備し、分かりやすく、景観にも配慮した案内サインを設置することで、地域全体の魅力向上を図る。 ・ユニバーサルデザイン：多様な方に配慮したデザイン、文字	明和町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	景観・風景への来訪体験の NPS		-
2022			-
2023			-
2024	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		60
2025	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		65
2026	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		70
2027	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		75
2028	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		80
2029	景観・風景への来訪体験の NPS (%)		85
事業費	2024 年度：5,000 2025 年度：7,000 2026 年度：5,000		
継続に向けた事業設計	景観整備、周辺景観の保全、案内サインの整備などを継続して実施する。来訪者からの意見を収集し、景観整備に反映させる仕組みを作る。		
事業費	2027 年度：500 2028 年度：500 2029 年度：500		
継続に向けた事業設計	維持管理体制を強化し、良好な景観を維持していく。		

(事業番号 4-B)

事業名		日本遺産情報発信施設整備事業	
概要		日本遺産のストーリー全体を理解できる情報発信施設を整備し、来訪者が「斎王のみやこ」の世界観を深く理解し、共感できる環境を創出する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	関連施設（近鉄斎宮駅史跡公園口休憩所、斎宮歴史博物館ミュージアムショップ）の日本遺産情報発信機能強化など	展示内容の充実 ・ 斎王の「祈り」をテーマに、ストーリー性のある展示内容にする。 ・ 最新の研究成果や発掘調査の成果を反映させる。 ・ 案内パネルや案内人を導入、設置する。 ・ 英語をメインとした多言語案内環境を整える。 空間デザイン： ・ 「祈りの空間」をイメージした、落ち着いた空間デザインにする。 ・ バリアフリー化を進め、誰でも快適に利用できる施設にする。	明和町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	解説内容等の NPS（％）		－
2022			－
2023			－
2024	解説内容等の NPS（％）		65
2025	解説内容等の NPS（％）		70
2026	解説内容等の NPS（％）		71
2027	解説内容等の NPS（％）		72
2028	解説内容等の NPS（％）		73
2029	解説内容等の NPS（％）		74
事業費	2024 年度：2,000 2025 年度：1,000 2026 年度：1,000		
継続に向けた事業設計	展示内容の更新、新たなコンテンツの導入などを継続的に行う。来訪者からの意見を収集し、展示内容に反映させる仕組みを作る。		
事業費	2027 年度：500 2028 年度：500 2029 年度：500		
継続に向けた事業設計	情報発信施設としての機能を強化し、日本遺産「斎王のみやこ」の情報発信拠点として活用する。		

(事業番号 4-C)

事業名	サブストーリー発掘・発信事業		
概要	体験に直結するストーリーの一部について、サブストーリーとして深く魅力を整理し、理解を深めることで、新たな観光ルートや体験プログラム、商品開発などに繋げる。		
	取組名	取組内容	実施主体
	斎王の「祈り」をテーマとしたサブストーリーの発掘と発信	・ 歴史資料調査：斎宮や斎王に関する歴史資料を調査し、「祈り」に関連するエピソードや物語などを発掘する。 ・ 地域住民への聞き取り：地域に伝わる言い伝えや民俗行事などを調査し、「祈り」に関するストーリーを収集する。 ・ サブストーリーの整理と体系化：収集したストーリーを整理し、体系化することで、日本遺産のストーリーをより深く理解できる内容にする。 ・ 多様な媒体での発信：ウェブサイト、パンフレット、動画で情報を発信する。 ・ イベント：サブストーリーをテーマとしたイベントを開催する。 ・ 体験プログラム：サブストーリーを題材とした体験プログラムを開発する。 ・ 商品開発：サブストーリーをモチーフにした商品を開発する。	日本遺産活用推進協議会、DMO、明和町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	サブストーリーを活用した事業数（件）		1
2022			2
2023			3
2024	サブストーリーを活用した事業数（件）		4
2025	サブストーリーを活用した事業数（件）		5
2026	サブストーリーを活用した事業数（件）		5
2027	サブストーリーを活用した事業数（件）		6
2028	サブストーリーを活用した事業数（件）		7
2029	サブストーリーを活用した事業数（件）		8
事業費	2024 年度：1,000 2025 年度：1,000 2026 年度：1,000		
継続に向けた事業設計	サブストーリーの発掘と発信を継続し、新たな観光資源を創出する。発掘したサブストーリーを、民間事業者と連携し、観光商品や体験プログラム、商品開発などに繋げる。		
事業費	2027 年度：500 2028 年度：500 2029 年度：500		
継続に向けた事業設計	サブストーリーを活かした事業の自立化を支援する。		

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	日本遺産ガイドツアー造成・販売事業		
概要	日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーを体感できる魅力的なガイドツアーを造成し、販売することで、誘客促進と地域経済の活性化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	斎王の「祈り」を感じるガイドツアー造成	・テーマ設定：「祈り」「癒し」「歴史ロマン」「自然」などをテーマに、多様なニーズに対応したガイドツアーを造成する。 ・構成文化財の活用：各構成文化財の魅力を最大限に活かしたツアー内容にする。 ・ストーリーテリング：ガイドによる分かりやすく興味深い解説を通して、斎王の「祈り」や当時の暮らしを体感できるツアーにする。 ・質の高いガイド育成：「斎王のみやこ」アカデミーなどで育成したガイドを積極的に活用する。	DMO
②	販売促進	・旅行会社への営業：DMO が中心となり、旅行会社への営業活動を行い、ツアーの販売を促進する。 ・オンライン販売：ウェブサイトやオンライン旅行予約サイトで、ツアーの販売を行う。 ・多言語対応：外国人観光客向けに、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語など、多言語対応のツアーを造成・販売する。	DMO
③	顧客満足度向上	・モニターツアー：ツアー造成後、モニターツアーを実施し、顧客の意見を反映することで、ツアー内容の改善を図る。 ・アンケート調査：ツアー参加者に対して、満足度調査を実施し、サービスの質向上に努める。	DMO
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	体験購入による売上（万/年）		36
2022			135
2023			172

2024	体験購入による売上	200
2025	体験購入による売上	250
2026	体験購入による売上	300
2027	体験購入による売上	400
2028	体験購入による売上	500
2029	体験購入による売上	600
事業費	2024 年度：2,000 2025 年度：2,000 2026 年度：2,000	
継続に向けた事業設計	多様なニーズに対応した魅力的なガイドツアーを継続的に開発し、販売促進活動を行う。ガイドの質向上のための研修などを実施する。	
事業費	2027 年度：2,000 2028 年度：2,000 2029 年度：2,000	
継続に向けた事業設計	収益性を高めながら、持続可能な事業運営体制を構築する。	

(事業番号 5-B)

事業名		日本遺産体験コンテンツ造成・販売事業	
概要		日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーを五感で体感できる魅力的な体験コンテンツを造成し、販売することで、誘客促進と地域経済の活性化を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	斎王の「祈り」を体感できる体験コンテンツ造成	・テーマ設定：「祈り」「癒し」「歴史」「文化」「自然」「食」などをテーマに、多様なニーズに対応した体験コンテンツを造成する。 ・構成文化財の活用：各構成文化財を活かした体験コンテンツにする。 ・地域資源の活用：地域の伝統文化や自然などを活かした体験コンテンツにする。 ・多言語対応：外国人観光客向けに、英語をメインとした体験コンテンツを造成する。	DMO、民間事業者
②	販売促進	・旅行会社への営業：DMO が中心となり、旅行会社への営業活動を行い、体験コンテンツの販売を促進する。 ・オンライン販売：ウェブサイトやオンライン旅行予約サイトで、体験コンテンツの販売を行う。 ・宿泊施設との連携：宿泊施設と連携し、宿泊プランに体験コンテンツを組み込む。	DMO、民間事業者
③	顧客満足度向上	・モニター体験：コンテンツ造成後、モニター体験を実施し、顧客の意見を反映することで、コンテンツ内容の改善を図る。 ・アンケート調査：体験参加者に対して、満足度調査を実施し、サービスの質向上に努める。	DMO、民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	体験購入による売上（万/年）		-
2022			-
2023			-
2024	体験購入による売上		100
2025	体験購入による売上		150
2026	体験購入による売上		250
2027	体験購入による売上		300

2028	体験購入による売上	400
2029	体験購入による売上	500
事業費	2024 年度 : 2,000 2025 年度 : 2,000 2026 年度 : 2,000	
継続に向けた事業設計	多様なニーズに対応した体験コンテンツを継続的に開発し、販売促進活動を行う。体験コンテンツの質向上のための研修などを実施する。	
事業費	2027 年度 : 2,000 2028 年度 : 2,000 2029 年度 : 2,000	
継続に向けた事業設計	収益性を高めながら、持続可能な事業運営体制を構築する。	

(事業番号 5-0)

事業名		日本遺産ストーリー関連商品開発・販売事業	
概要		日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」のストーリーを活かした関連商品を開発し、販売することで、誘客促進と地域経済の活性化を図る。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	斎王の「祈り」を伝えるストーリー関連商品開発	・テーマ設定：「祈り」「癒し」「歴史」「文化」「自然」「食」などをテーマに、多様なニーズに対応した商品を開発する。 ・構成文化財の活用：各構成文化財をモチーフにした商品開発を行う。 ・地域資源の活用：地域の伝統工芸品や特産品などを活用した商品開発を行う。 ・高品質：高品質で魅力的な商品を開発する。	DMO、民間事業者
②	販売促進	・販売場所：斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館、観光案内所、宿泊施設、オンラインショップなどで販売する。 ・イベント販売：イベント会場での販売を行う。 ・広報活動：パンフレット、ポスター、ウェブサイト、SNSなどで商品をPRする。	DMO、民間事業者
③	ブランド化	・ブランド名：日本遺産「祈る皇女 斎王のみやこ斎宮」をイメージしたブランド「qu」を活用する。 ・ロゴマーク：ブランドロゴマークや日本遺産ロゴマークを活用する。 ・パッケージデザイン：統一感のあるパッケージデザインを開発する。	DMO、民間事業者
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	体験購入による売上（万/年）		-
2022			-
2023			-
2024	体験購入による売上		100
2025	体験購入による売上		150
2026	体験購入による売上		250
2027	体験購入による売上		300
2028	体験購入による売上		400
2029	体験購入による売上		500
事業費		2024 年度：2,000 2025 年度：2,000 2026 年度：2,000	

継続に向けた 事業設計	新商品開発や販路拡大などに取り組み、売上増加を目指す。 商品の品質向上とブランド力の強化に努める。
事業費	2027 年度：2,000 2028 年度：2,000 2029 年度：2,000
継続に向けた 事業設計	事業の収益化を目指し、行政からの補助金を段階的に減らし、自立した 事業運営体制を構築する。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名		日本遺産学校教育連携事業	
概要		未来を担う子どもたちに、日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の価値や魅力を伝え、郷土への愛着と誇りを育むとともに、次世代への継承を担う人材を育成する。	
	取組名	取組内容	実施主体
①	斎王のみやこ学習カリキュラム開発	- 各学校段階（小学校、中学校）における学習指導要領に準拠した、日本遺産に関するカリキュラムを開発する。 - 教科書：郷土学習の副読本として活用できるように、斎王や斎宮の歴史、文化、魅力を分かりやすく解説した教材を開発する。 - デジタル教材：動画など、子どもたちの興味関心を高めるデジタル教材を開発する。	明和町教育委員会、明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、各学校
②	体験型学習	- 史跡見学：日本遺産関連文化財を巡る校外学習を実施する。 - 発掘調査体験：発掘調査の疑似体験や、出土品に触れることができるワークショップを開催する。 - 斎王体験：十二単の着付け体験や、古代の食事を再現する体験などを通して、斎王の暮らしを体感できるプログラムを実施する。 - 伝統芸能体験：斎宮に伝わる伝統芸能を体験できるワークショップを開催する。	明和町教育委員会、明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、各学校
②	人材育成	- 教員研修：日本遺産「斎王のみやこ」に関する教員研修を実施し、専門知識や指導方法を習得する機会を提供する。 - 地域人材活用：地域の歴史や文化に精通した地域人材を講師として招き、専門的な指導を行う。	明和町教育委員会、明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、各学校
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数（人）		223
2022			682
2023			283
2024	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数（人）		400
2025	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数（人）		500

2026	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数(人)	550
2027	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数(人)	600
2028	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数(人)	650
2029	出前授業等の学習体験をした児童生徒の人数(人)	700
事業費	2024 年度 : 2,000 2025 年度 : 200 2026 年度 : 200	
継続に向けた事業設計	開発したカリキュラムや教材を継続的に活用し、より多くの児童生徒に日本遺産「斎王のみやこ」を学んでもらう機会を提供する。 体験型学習の充実を図り、より深く学べる環境を整備する。	
事業費	2027 年度 : 200 2028 年度 : 200 2029 年度 : 200	
継続に向けた事業設計	地域住民や民間事業者と連携し、より実践的な学習機会を提供する。 学習内容を地域活性化につなげる取り組みを検討する。	

(事業番号 6-B)

事業名		日本遺産地域住民普及啓発事業	
概要		地域住民の日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」への関心を高め、理解を深めるとともに、地域全体で日本遺産を活かした地域づくりを進める機運を高める。	
	取組名	取組内容	実施主体
③	講演会・シンポジウム:	・ 専門家: 日本遺産や斎宮の歴史、文化、魅力について、専門家を招いた講演会やシンポジウムを開催する。 ・ テーマ: 「祈り」「癒し」「歴史ロマン」「自然」「食」など、多様なテーマを設定する。 ・ 対象: 幅広い世代の地域住民が参加しやすいテーマや講師を選定する。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、観光協会、商工会、地域住民団体
②	情報発信	・ 広報誌: 広報誌やチラシなどで、日本遺産関連事業やイベント情報を発信する。 ・ 地域情報紙: 地域情報紙への記事掲載や広告掲載を通して、日本遺産を PR する。 ・ ウェブサイト: 日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」の公式ウェブサイトや、関連団体のウェブサイトで、情報を発信する。 ・ SNS: Facebook、Twitter、Instagramなどの SNS を活用し、積極的に情報発信を行う。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、観光協会、商工会、地域住民団体
④	地域活動との連携	・ 地域の祭りやイベント: 日本遺産の要素を取り入れ、地域住民が楽しみながら日本遺産に触れる機会を作る。 ・ 地域の特産品開発: 日本遺産をモチーフにした特産品を開発し、販売することで、地域経済の活性化を図る。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、観光協会、商工会、地域住民団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数		-
2022			-
2023			-
2024	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数		300
2025	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数		350
2026	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数		400
2027	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数		450

2028	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数	500
2029	講演会、見学会、体験イベント等の参加者数	550
事業費	2024 年度：2,000 2025 年度：200 2026 年度：200	
継続に向けた事業設計	講演会や見学会、体験イベントの内容を充実させ、より多くの地域住民に参加してもらう。 情報発信を強化し、日本遺産の認知度向上を図る。	
事業費	2027 年度：200 2028 年度：200 2029 年度：200	
継続に向けた事業設計	地域住民が主体的に企画・運営できるような体制づくりを目指す。 普及啓発活動を通して、地域住民のシビックプライドを高め、地域活性化につなげる。	

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号 7-A)

事業名	戦略的な情報発信による日本遺産の魅力発信		
概要	ストーリーに関する情報とともに、来訪者が必要とする情報を取得できるよう HP、SNS 等を整備、更新する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信の戦略策定	・ターゲット：国内外の観光客、地域住民、メディアなど、それぞれのターゲットに合わせた情報発信を行う。 ・目的：認知度向上、理解促進、誘客促進、地域活性化など、情報発信の目的を明確にする。 ・発信する情報：ストーリー、構成文化財、体験プログラム、観光情報、地域情報など、発信する情報の内容を検討する。 ・発信媒体：ウェブサイト、SNS、パンフレット、動画、メディア広報など、それぞれの特性を活かした発信媒体を選定する。 ・効果測定：アクセス解析、アンケート調査、メディア掲載状況などを活用し、情報発信の効果を測定する。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、明和町
③	ウェブサイトの充実	・ストーリー：斎王の「祈り」というテーマを軸に、心を揺さぶるストーリー性のあるコンテンツを発信する。 ・構成文化財：各構成文化財の魅力や見どころ、歴史的な背景などを分かりやすく紹介する。 ・体験プログラム：斎王の儀式を体験できるワークショップ、十二単の着付け体験、古代の料理教室など、魅力的な体験プログラムを紹介する。 ・観光情報：アクセス、宿泊、飲食、イベント情報など、観光に必要な情報を網羅的に提供する。 ・地域情報：明和町の自然、歴史、文化、食など、地域の魅力を発信する。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、明和町
③	メディア広報	・プレスリリース：事業の進捗状況やイベント情報などを、プレスリリースを通して積極的にメディアに発信する。	明和町日本遺産活用推進協議会、

		・ 記者会見： 必要に応じて記者会見を開催し、事業内容を詳しく説明する。 ・ メディア取材： メディアからの取材依頼に積極的に対応し、日本遺産の魅力を発信する。	DMO、明和町
④	情報の一元化	・ ポータルサイト： 日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」に関する情報を一元的に発信するポータルサイトを構築する。 ・ 各団体・事業者の情報： 協議会、観光協会、各構成文化財などの情報を集約し、分かりやすく整理して掲載する。 ・ イベント情報： 日本遺産に関連するイベント情報をまとめて掲載する。 ・ 観光情報： アクセス、宿泊、飲食、お土産情報などを掲載する。	明和町日本遺産活用推進協議会、DMO、明和町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		19
2022			19
2023			19
2024	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		20
2025	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		21
2026	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		22
2027	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		23
2028	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		24
2029	必要な情報を整備した HP、SNS 等の数		25
事業費	2024 年度：500 2025 年度：500 2026 年度：500		
継続に向けた事業設計	策定した情報発信戦略に基づき、ウェブサイトや SNS の充実、パンフレット・動画制作、メディア広報などを継続的に実施する。 情報発信の効果測定を行い、改善策を検討する。		
事業費	2027 年度：500 2028 年度：500 2029 年度：500		
継続に向けた事業設計	より効果的な情報発信を行うため、新たな情報発信ツールの導入や、情報発信体制の強化を検討する。		